

## 平成30年11月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成30年11月26日（月）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>米澤新聞社、山形新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、NHK

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) スポーツ大使創設の実現性はありますか。
- (2) 市長選まであと一年ですが、再選を目指すお気持ちは？
- (3) 市発注の市道維持工事費水増し問題に対し、今後、事実関係を市民にどう説明するのか考えを伺いたい。
- (4) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、平成30年11月の定例記者会見を始めさせていただきます。この度は、三項目ほど質問を頂戴しております。順を追って、市長からお答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。まず、「スポーツ大使創設の実現性はありますか」という質問についてです。今、米沢市では“おしょうしな観光大使”、“食の親善交流大使”を創設しております。先日、全日本のスキークロスでヘッドコーチになりました本市出身の瀧澤宏臣氏から就任のご挨拶をいただきました。元々、瀧澤氏は塩井地区の中で様々な交流を深めておられて、子ども達へのスキー指導などもなさっておりました。世界選手権の出場など、実績がある方ですので、是非、米沢市の子ども達の競技力向上に力添えいただけないかというお話をし、その段階ではご協力したいとのことでした。

ただ、この間おいでいただいた二日後にはヨーロッパ遠征に同行するとのことで、「いつお帰りになるのですか」とお話ししたところ、年末になるということでありました。日程を調整させていただき、今年度のうちにスポーツ大使をお願いしたいということでご同意をいただいております。その名称については教育委員会の社会教育・体育課の方で検討しており、仮称ではありますが、今年中にスポーツ交流大使・親善

大使の委嘱をさせていただきたいと考えているところです。スポーツ大使はスキーだけでなく、その他の競技においても考えられるとは思いますが、子ども達や様々な競技を目指す選手にとって、「なるほどこの人なら納得できる」という方がいらっしゃれば、その段階で改めて検討したいと思います。

次に、「市長選まであと一年ですが、再選を目指すお気持ちは？」という質問についてです。10月の定例記者会見においても、このようなご質問があった訳であります。その時、私としては「自分の意思是っかり固まっておりますが、相談する人もおりますので、時期については正式表明までもう少しお時間をいただきたい」と答弁いたしました。

相談する人という点では、すでに新聞でも公表されておりますが、11月22日に主立った方々にお集まりいただき、今後、再選に向けてどのように進めていくのか、また、市政全般についても様々な面でご意見をいただきました。そういった中で自分の身の振り方についてもしっかりと話しをいたしました。新聞発表にもありましたように、2期目について再選を目指していくという表明をさせていただいたところがあります。

しかし、正式表明につきましては11月29日から始まります議員の一般質問に答える形で行いたいと思います。私の議員生活の中で、首長の出馬の意向については、議会側からその質問に答えて表明をしてきたというケースがほとんどだった訳であります。私も筋を通して、12月定例会では質問をされる議員もいらっしゃると思いますので、そのような流れの中で、正式に12月定例会で出馬表明をさせていただきたいと思っております。

次に三番目の「市発注の市道維持工事費水増し問題に対し、今後、事実関係を市民にどう説明するのか考えを伺いたい」という質問です。この件については、議会への様々な報告でマスコミの皆様にもご承知いただいていることだと理解しています。こういった水増しの被害があったということで、米沢警察署の方に被害届を提出しました。それが受理され、いま警察では調査も含めて解明を進めておられるとのことだったので、市としましては警察も含めて司法関係の問題はしっかりと協力してまいります。

受理された内容が調査され、そして公表できるという段階を待って、市民の皆様やマスコミの皆様にご報告をさせていただきたいと思っております。もう少し捜査の行方を見守らないといけないという状況ですので、このことにつきましてはご理解をいただきたいと思っております。

以上、三点について報告をさせて頂きました。ご質問等があればお願いします。

○秘書広報課長

それでは、質疑がありましたら幹事社(代行)を中心によろしくお願いいたします。

○幹事社

まず一つ目の質問についてです。スポーツ大使創設のために条例や要綱などを作ることになるのでしょうか。

○市長

いえ。これまでの観光大使や食の大使についても条例や要綱は作っておりません。

○幹事社

スポーツ大使の役割や期待することというのは、基本的に子ども達への指導ということですか。

○市長

はい。スキークロスの瀧澤選手はアルペンスキーの中では相応の評価を得ているということで、その一流の技術を子ども達へ教えていただき、競技力向上に向けて指導して欲しいと思います。また、競技力だけでなく、スポーツに臨む時の意義や競技に対する意欲など、精神的な面でもご指導いただきたいです。

○幹事社

ありがとうございます。その他、記者の方からご質問等ありますでしょうか。ないようですので、二番目の市長選に関する質問に移りたいと思います。

まず初めに、私から質問です。「主立った人」というのは後援会のメンバーということでしょうか。

○市長

ええ。後援会の方や、私が独自にこの方には今後のことを相談しなければならないだろうなと思った方も含めてということですか。

○幹事社

その方々には再選に向けて立候補するというお話なさって、ご了解いただいたということですか。

○市長

ご了解と言いますか、時期的なものも含めてどうなのでしょうということ率直に申し上げました。対抗馬も既に出ていることだし、もう早めに表明したら良いのではないかというお話もありましたので、12月定例会の中で正式表明をするという意思を固めたところであります。

○幹事社

分かりました。他に質問などある方いらっしゃいますか。

○記者

なぜ再選に向けて立候補しようと思ったのでしょうか。

○市長

我々首長としては正直きりがいいことだと思っております。次の仕事が出てくればそれが完成するまでと言ってしまうと、いつまでも首長をしていなければならない訳です。ただ、今回の大きな課題として、市立病院の建て替えだけでなく、民間病院と公立病院の医療連携という非常に珍しい部分もあります。これは私の方から三友堂病院さんの方に医療連携を申し入れた件ですので、しっかりと形が見えるまでは私の責任であろうと思っておりますし、また、置賜定住自立圏構想につきましても、前々か

ら話はあったようですが、なかなかまとまってきました。ようやく3市5町一丸となって、これからの地方の活性化、あるいは福祉の向上をお互い目指していこうという意思統一をさせていただきました。こういったことの張本人として、そして米沢市長として責任があるだろうということで、ある程度格好がつくまでは責任を持たないといけないという想いはあります。

○記者

再選出馬の時は無所属ということでよろしいのでしょうか。

○市長

今回は無所属でした。ただ、政党に推薦依頼を出した経過も三年前はあった訳でしたが今後については状況を判断いたします。今後、どうするかというような方針はまだ出しておりません。

○記者

政党の推薦を要請するかどうかという判断は出ていないだけで、無所属での出馬ということには変わらないということですか。

○市長

はい。無所属での出馬には変わりないです。

○記者

条例で二期というのは今も活きているのですよね。

○市長

はい。まだ削っていませんから条例に載っています。

○幹事社

他にいかがでしょうか。では、三番目の質問についてです。記者の皆さん質疑等ありますでしょうか。

○記者

はい。三番目の質問に関して、どのような被害が出ているのか分からないのですが。

○市長

工事費水増し問題ということで、本来このくらいのものが膨らんで請求されたということだと思っております。

○記者

そうしますと、水増しについての証拠があるということですね。

○市長

被害届を出したということはそういうことだと思います。

○記者

どのくらいの被害なのでしょう。

○市長

具体的に担当からはこのくらいの被害だということは聞いておりますが、それは様々な捜査の影響がありますので、ご勘弁を頂きたいと思っております。

○記者

そもそも被害届は何の被害届を出したのかという件について、それについても市としては答えられないと言われていましたよね。

○市長

記者クラブさんから頂いた質問用紙の中にも「市発注の市道維持工事費水増し問題」という記載がありますので、それは記者の皆さんもご承知の上でのご質問だと思っております。ただ、被害額についてはまだ警察内部で調査中であり、被害額についてはご勘弁をいただきたいと思います。

○記者

事実関係がはっきりした段階で市民には説明するというのでしょうか。

○市長

そうですね。警察には被害届の受理はしていただいた訳ですが、まだ調査中だということで被害額についても、市が届け出た額と警察の調査の結果がどのように整合していくのか、いま現在では分からない状況です。そこがはっきり出た段階でしっかりとお知らせを申し上げます。

○記者

警察の捜査で被害額の答え合わせをする必要は全くないと思います。こういう被害があると思っていたが、警察が犯罪として認定するのはこれだ、というように、両者が全く違うというのはある話です。立件できる所とできない所は当然出てくるので、額が合っていないから被害額を言えないというのはなぜですか。

○市長

いえ。額が相互で違うから言えないということではなく、全般的に捜査をしているので、警察としてもその点については今後の捜査の行方にも関わってくるので、という話を担当の方に行っているとのことでした。

○記者

被害届は詐欺被害にあったという内容で良いのでしょうか。

○市長

このくらいでできるという金額よりも、余計に請求されたということですから、これが詐欺に当たるのかどうなのか。適切な言葉かどうかは別にしても、水増し請求されたということで、今のところご理解いただきたいと思います。

○記者

返還請求などではなく、警察に被害届を出すということは処罰感情があるということだと思うので、毅然とした対応は悪くないと思います。しかし、そこまでしたら、最低限、市長が先ほどおっしゃったことに関してと、期間と市が見積もっている額だけお示しになれば話になると思うのです。業者名をおっしゃってくださいと言っている訳ではないので、額がどの程度かということがないと概要も分かんないと思います。水増し請求され被害届を出したと、そこまで言って被害額を言えない理由はなぜでしょうか。

○市長

正直に言いまして、警察の捜査の事情もあって分かりません。その額が捜査の段階で警察が発表した額とどのくらい乖離があるのか、米沢市としてはこのくらいの金額だと思っても、どのように捜査が展開されていくのかについても、分からない部分もあります。

○記者

いずれ警察が動いたとき、市長がそのようなことをおっしゃると発表できることはないと思いますし、額が違うといいますけれども、企業から名誉棄損で訴えられる訳ではないと思うので、何をそこまで気を使っているのか分かりません。

○市長

正直に言って私もそう思っています。ただ、警察と市の担当の方で話をしているようです。だから、そういったものがどういう意味をもっているのかということも、一定程度のところまではお知らせしたいと私は思っております。もう少し待っていただきたいというのが、警察の判断のようでありますので、そのところは勘弁頂きたいと思います。公表できるようになったら、なるべく早く公表させますので。

○記者

市民に対して、報告できる段階になった時には説明したいということなのですが、それは会見という場でしょうか。どのような形を考えていますか。

○市長

警察がどのような判断をするかですが、被害届を出して、どのような刑罰なのか、起訴するのকাশないのか、様々な話題が出てくると思います。そういったことも見ながら、米沢市として適切な対応をしていかなければならないと判断したときには、記者会見なりをしなければならぬと思います。これが説明責任だと考えます。どのような判断をするかは状況が決まってからになります。

○記者

私は米沢に住んで結構長いのですが、被害届というのは今まで経験がなく、初めてのことだと思います。被害届の中身は単年度だけの水増しなのか、複数年の水増しなのか、そのくらいのことは言っていただいても良いと思うのですが。

○市長

これも正直に言って分からないことです。例えば、今年度の中でこれくらいの水増し請求があったということは、米沢市としても把握しているから被害届を出したのかもしれない。しかし、そこから前へ遡ってという点については、それも含めて警察は調査をしているのだらうと思います。今年度分では、このくらいの被害額ですというのはあるのですが、遡っていくとどれくらいの被害額になるのかということもあるようです。単年度だけだということであればそれはそれで良いのでしょうかけれども、複数年に渡った場合には米沢市としても掴んでいない部分もあります。今、その点の捜査を行っている状況ですから、なかなかもう少し公表するまでにはいかないということです。警察はどのような捜査をしているのか口外しませんので、あくまでも

我々が推測している分ではそのようなこともあるので、公表や対応が遅れているのだろうと私は思っております。ただ、被害届を出すというのは私もあまり聞いたことがありません。今回が初めてなのでしょう。だから余計に対応が分からないということもあるのだろうと思います。

○記者

単年度ではなくて過去にも遡っており、なかなか解明が難しいから被害届を出して、捜査のプロに任せるといふこともあるのでしょうか。

○市長

結局は諸々考えてみた場合に、なぜこのような事例が発生したのかも含めて、警察もしっかり解明をしなければならないという意思があるということだと思います。ただ、年度を遡ってみて被害が出てくるのか、出てこないのかは分かりません。

○記者

被害届を見せていただくのが一番良いのですが、そうもいかないと思います。被害届の中には、額は記載されているのですか。

○市長

被害届を出している訳ですからそうだと思います。それを受けていまいろいろと警察内部で捜査をしているということですから、そこが単に米沢市で被害届を出したということだけで終わるのか、それとももう少し拡大をしていくのかという判断は、今我々にはできません。これが担当者と警察のやりとりのようです。

○幹事社

その他、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで平成30年11月の定例記者会見を終了いたします。